

平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における岸里小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成29年4月から7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・岸里小学校では、5年生 70名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大阪市立岸里	小学校	児童数	70
--------	-----	-----	----

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	13.74	18.54	48.00	40.26	42.23	9.52	147.18	21.09	52.37
大阪市	16.49	19.23	32.34	39.54	49.98	9.37	149.36	22.61	52.79
全国	16.51	19.92	33.15	41.95	52.24	9.37	151.71	22.53	54.16
女子	14.77	22.29	53.15	43.83	44.88	9.56	152.53	15.64	60.55
大阪市	16.18	18.20	37.06	37.88	39.64	9.60	143.32	14.07	54.58
全国	16.12	18.81	37.43	40.06	41.62	9.60	145.47	13.94	55.72

結果の概要

体力合計点を見ると、男子は大阪市平均と大差はなく、女子は大阪市平均を5.9ポイント上回っている。各種目を見ると、男女とも、長座体前屈が大阪市平均を大きく上回っている。男女別にみると、女子は、握力以外大阪市平均を上回いるが、男子が大阪市平均を上回っているのは、長座体前屈と反復横とびだけであることがわかる。しかし、握力と20Mシャトルラン以外は、大阪市平均との差が大きく開いていることはなく、男女ともに平成29年度5年生の体力・運動能力は向上しているといえる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

平成28年度より、校舎改築工事が始まり、運動場が狭くなっているが、遊び方を工夫したり、講堂を休み時間に開放したり、クライミングボードを設置したりして、子どもの運動量が極端に減らないよう工夫している。体育の授業でも、狭い運動場を工夫して使用して、十分な運動量を確保するようにしている。結果の概要から、長座体前屈の結果がすば抜けて良く、体が柔らかいということが、あらゆる運動において有利に働いているのではないかと考える。校舎改築工事は平成30年末まで続き、運動場が元に戻るのは、平成31年である。その間、狭い場所でも体を十分に動かし、子どもたちが楽しみながら体を動かせるように工夫しながら、体育の授業を行っていかなければならない。また、男女ともに握力に課題が見られるので、棒引きや鉄棒運動、上り棒、クライミングボードなどを使って、握力を使う運動を楽しく続けられるように工夫していく必要がある。

また、「体育の授業が楽しい」と感じ、自分の健康や安全のことについて関心をもってさまざまな活動に取り組める児童を育てるためにも、授業の中で個にあった練習や場の提供ができるよう、工夫を重ねていく必要がある。